

常林寺

土石なだれに流された寺の梵鐘の行方

■■■大地の活動■■■

1783（天明3）年の噴火では、長野原町の村々も大きな被害を受けました。小宿村の常林寺も鎌原土石なだれに押しつぶされ、その後、20年余りの間は寺を嬬恋村今井に移していましたが、文政年間に本堂を再建整備して現在に至っています。土石なだれに流された寺の梵鐘は、15kmも下流の川原畑で1910（明治43）年に発見されました。その梵鐘は現在、浅間火山博物館に展示されています。



常林寺



展示されている梵鐘